

# ■耐震強度検討書(アンカーボルト)

1.機種 =   
 2.形名 =

## 3.機器諸元(下記参照)

(1)機器質量(運転質量)  $w =$   kg  
 (2)アンカーボルト  
 ①総本数  $N =$   本  
 ②サイズ・形状  $= M$   形  
 ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積)  $A =$   mm<sup>2</sup> =  m<sup>2</sup>  
 ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数  $N_t =$   本  
 (3)据付面より機器重心までの高さ  $H_g =$   mm =  m  
 (4)検討する方向からみたボルトスパン  $L =$   mm =  m  
 (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離  $L_g =$   mm ( $L_g \leq L/2$ ) =  m

## 4.検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度 設計用標準震度  $K_s =$    $K_h = Z \cdot K_s =$    
 地域係数  $Z =$    
 (2)設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 =$    
 (3)設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot w \cdot 9.8 =$   N  
 (4)設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot w \cdot 9.8 =$   N  
 (5)アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (w \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} =$   N  
 (6)アンカーボルトのせん断力  $Q = F_h / N =$   N  
 (7)アンカーボルトに生ずる応力度  
 ①引張応力度  $\sigma = R_b / A =$   MPa <  $f_t = 176.0$  MPa (ボルト(SS400)の許容引張応力  $f_t$ )  
 ②せん断応力度  $\tau = Q / A =$   MPa <  $f_s = 101$  MPa (ボルト(SS400)の許容せん断応力  $f_s$ )  
 ③引張とせん断を同時に受ける場合  $f_{ts}' = 1.4f_t - 1.6\tau =$   MPa  
 ただし、 $f_{ts} \leq f_t$  のとき  $f_{ts} = f_{ts}'$ ,  $f_{ts}' > f_t$  のとき  $f_{ts} = f_t$  であるので  $f_{ts} =$   MPa  
 $\sigma =$   MPa <  $f_{ts} =$   MPa  
 (8)アンカーボルトの施工法  
 ①アンカーボルトの施工法 =   
 ②コンクリートの厚さ =  mm =  m  
 ③ボルトの埋込長さ =  mm =  m  
 ④許容引抜荷重  $T_a =$   N >  $R_b =$   N

以上の検討結果によりアンカーボルトは十分な強度を有する。

\*ボルトの許容応力度およびアンカーボルトの引張許容引抜荷重は、『建築設備耐震設計・施工指針2014年度版』による。

